

『栄養管理の実践メンバーとして理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割は非常に大きくなっている』

西暦 2026 年も、1 月に行く、2 月は逃げる、なので、早めにこの原稿を書かなくてはなりません。この原稿をレイアウトして、PDF 化するのですが、今回から、文字を大きくして、全体としての文字数を減らすことにしました。長すぎると読んでもらえませんから。

2 月の最初の仕事は、神戸学院大学での第 5 回 Home Infusion 研究会(辻本先生が主催)での講演。ちょうど、なぜか、風邪をひいてしまって鼻水じゅるじゅるの状態でした。咳も出るのでマスクをしてしゃべりました。風邪をひいたのはコロナ前以来。今回も、勝手な意見をしゃべってしまいました。反省しています。気分を害された方がいたらごめんなさい。神戸学院大学は、昨年も紹介しましたが、ポートアイランドの海沿いにあるので、環境というか景色が抜群。今回は、大学の海沿いのプロムナードを端から端まで歩きました。いいなあ、こんな大学で勉強できたら、と思いました。

翌日の月曜日の夜には神戸ルミナリエへ。長い間待って会場へ入りますが、あっという間に通り過ぎます。きれいでした。昔ほどの盛況ではありませんでしたが、阪神淡路大震災の鎮魂です。

2 月 8 日は衆議院議員選挙。雪でした。結果は？自民党の大勝利。これでいいの？日本が大変なことになるのではないかと心配しています。高市旋風？私には理解不能。アメリカのトランプ大統領が余計なことを言いましたが・・・後が怖い。その夜は大阪・兵庫でも結構な雪。9 日の朝は雪のために道路が渋滞。スリップ事故もありました。私は冬用タイヤでしたが、ノーマルタイヤの車にぶつけられたらどうしようもないな、と心配しながら運転しました。いつもの 2 倍の時間がかかって、無事、大学に着きました。

2 月 13 日には横浜へ、第 41 回 JSPEN。今回は参加する予定ではなかったのですが、14 日の夕方、日本栄養士会の理事長、中村丁次先生の叙勲祝賀会へのお誘いがあったので、ついでに JSPEN にも参加するか、でした。13 日の夕方には増本先生、北出先生、林先生を誘って会食。3 人とも、横浜といえば「中華」と思っていたとのことですが、私にとっては「横浜といえば牛鍋」。3 人とも牛鍋に感動していました。翌日は学会場へ入る前に横浜の港をうろうろ。さすがに観覧車、ロープウェイには乗りませんでしたが、横浜港散策は満喫しました。学会では、ネームカードの紐の色が職種別になっていました。医師、看護師・准看護師、薬剤師、栄養士・管理栄養士、歯科医師、その他、に分けられていました。意図はわからなくはないけど、リハビリの方々(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)の参加も増えているのに「その他」はないだろうと思いました。午前中は PICC のセッション を拝聴。挿入に重点を置いた発表がほとんど。投与する輸液の感染にも注目して欲しい。午後は静脈栄養のワークショップ。脂肪乳剤は速く、たくさん投与しても大丈



↑ 神戸港プロムナードから神戸学院大学を撮影しました。神戸学院大学は建物も立派だし、キャンパス自体が芝生で覆われていて綺麗です。プロムナードには「BE-KOBE」があります。兵庫医療大学の前です。



↑ 神戸学院大学での講演を終えて、海に向かって歩いています。正面に神戸港が見えます。すごいでしょ？



↑ 神戸学院大学の海沿い、プロムナードからの景色です。向こう岸にはメリケンパークオリエンタルホテル、ホテルオークラ、神戸タワーが見えます。いい景色です。私が好きな景色です。この日は風が強く波もありましたが、まあ、こんなものでしょう。

夫！という結論。その前にもっと脂肪乳剤を使いましょう、そういう啓発活動をして欲しいと思いました。8 題の発表でわずか 90 分。ワークショップなのに議論の時間がない。もったいない。短くても 120 分のセッションだと思いました。とにかく参加者が多くて、イベント、お祭りとしては盛り上がっているなあと感心しました。儲かったらうなあ。

夕方は、東京の帝国ホテルで中村先生の祝賀会。偉い方がたくさん来ておられました。久しぶりに大塚製薬工場の岩切氏とゆっくり話ができました。ニュートリーの原氏、栄養士会の理事になられた森氏とも話ができました。同じテーブルには東京大学の深柄先生、佐伯栄養専門学校の片山先生、女子栄養大学の方々がおられ、いろいろ世間話をさせていただきました。とにかく叙祝祝賀会は盛大でした。

翌 15 日は予定が無かったので、東京をうろうろ。宿泊は秋葉原。吉田松陰終焉の地に行き、それから戻って湯島聖堂へ。しかし湯島聖堂の開館は 9 時半。私が行ったのは 8 時半。待てない。どうする？東京駅の「JP タワー学術文化総合ミュージアムインターメディアテク」に行きたかった

のです。でも、開館は 10 時(これは誤解で、実際は 11 時)。それまですることがない。仕方ない、東京駅まで歩くか。地図で計算すると 2.5km ほど。歩ける！お茶の水駅から東京駅まで歩きました。東京都丸の内KITTEに着いてみると、開館は 11 時。それまで待てない。やーめた、諦めた、疲れた、ということで 10 時半過ぎの新幹線で帰阪しました。結局、この日の歩数も **2 万歩**でした。最近、確かによく歩くなあ。それしか楽しみがないの？という感じ。健康のために歩く、歩く、です。

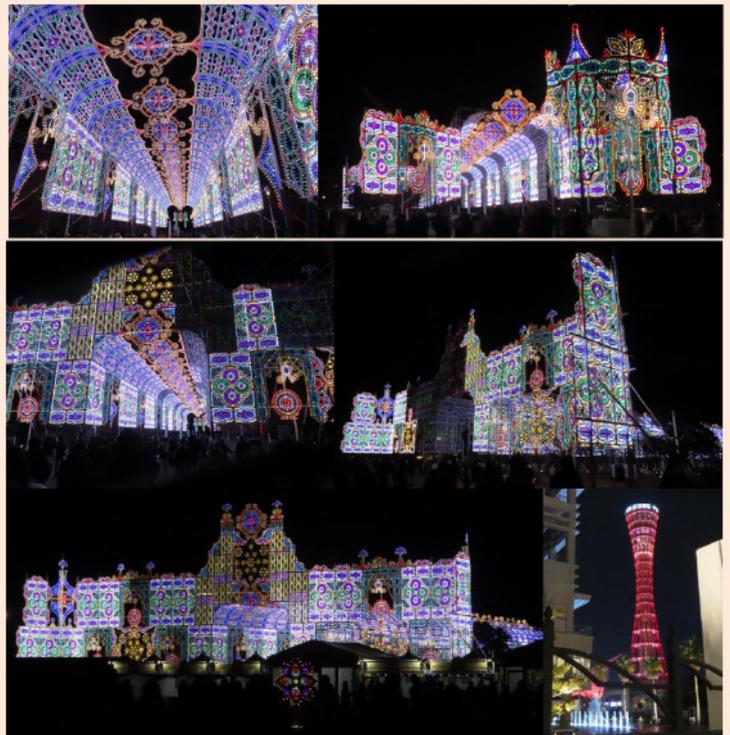
大学は春休み。研究室でいろいろ仕事をして過ごしました。うろうろ、ウロウロ、でした。学生はもちろん大学へ来ませんし、先生達にも会いません。先生達、大学へ来ているのだろうか、知りません。私は毎日出勤していますが、ほとんど誰とも話をせずに 1 日が過ぎていきます。木曜日と金曜日に東宝塚さとう病院で外来と栄養回診をしています。最近、多弁になっているかな？という感じ。「人恋しい」そんな感じです。



↑神戸学院大学での「第 5 回 Home Infusion 研究 無菌調製講習会」で講演しました。風邪をひいていたのでマスクのままでしゃべりました。TPN に関する講演は、本当に少なくなっています。みんな、もう TPN についてはわかっている？そんなことはありません。なぜ、TPN のために中心静脈カテーテルを入れなくてはならない？そこから解説しなければならなくなっています。基本中の基本です。神戸学院大学薬学部では辻本先生が講義しているので、みんな、わかっている？



↑神戸ルナリエの会場、メリケンパークの「BE KOBE」です。明るいうちに行きました。右の写真は神戸ハーバーランドの夕焼けです。きれい。そういえば、去年は神戸港観光もしたし、神戸ポートタワーにも登りました。シルバー割引だったので、受付の方に階段は大丈夫ですか？と言われたのでした。



↑神戸ルナリエです。もう何回目でしょうか。阪神淡路大震災から、もう 30 年が過ぎました。やっぱりきれいです。かつては無料だったのですが、最近は有料。前売り券を購入しなければなりません。入るまでに長い時間待ちます。入ったら、通り抜けるのはすぐです。数分ですが、ゆっくりじっくり味わう、これが大事です。本当、すぐに通り抜けます。この日はぼつぼつ雨が降りました。帰りに、神戸港震災メモリアルパークで資料を見ました。

ゼン先生：第41回JSPENに参加してきました。

小越先生：え？去年、もうJSPENは最後だと言っていたのに。今年も参加したのか。

ゼン先生：そのつもりだったんですが、急に事情が変わったので、参加しました。

小越先生：どういうこと？

ゼン先生：1月9日に「中村丁次氏瑞宝中綬章受章記念祝賀会」の案内が速達で届きました。

小越先生：案内が速達で？

ゼン先生：そうなんです。なぜかはわかりませんが。速達です。速達で来たので、これは参加しないとイケないだろうと思ひましてね。2月14日なので、ちょうど、JSPENの2日目です。東京での祝賀会だけに行くのもなあ、と思ひて、ついでに横浜でのJSPENに参加することにしたんです。

小越先生：なるほど。事情はわかった。ついでに、か。

ゼン先生：はい。ついでに、です。

小越先生：学会ではオレが知っている人に会ったんじゃないか？

ゼン先生：はい。岩佐先生ご夫妻に会いました。

小越先生：そうか。元気だったか？

ゼン先生：私に会うなり、もうJSPENには来ないんじゃないかったのか？と言われました。

小越先生：ハハハ、オレと同じことを言ったんだな。

ゼン先生：そうですね。先生に対する返事と同じ内容で来た理由を説明しました。

小越先生：そうだろう、そうだろう。他には？

ゼン先生：城谷先生に会いました。

小越先生：今は在宅で仕事をしているんだったな。

ゼン先生：そうですが、医療法人社団西日本平郁会という医療法人社団の理事長をしておられて、西日本の統括をしておられるそうです。就職先が欲しかったら連絡しなさい、と言っていたいただきました。

小越先生：へええ、だな。よかったな。

ゼン先生：はい。大学を首になったら、就職をお願いしようかと思っています。

小越先生：受賞記念祝賀会はどうだったんだ？

ゼン先生：偉い方がたくさん来ておられました。私は、自分のテーブルの方としか話はできませんでしたが、ほとんど知らない方でした。中村先生がよく来てくれたと言ってくれたので出席してよかったです。

小越先生：会場はどこだったんだ？

ゼン先生：東京の帝国ホテルです。

小越先生：へええ。料理はうまかったのか？

ゼン先生：まあそうですね。会費が3万円なので、高級料理だったんだと思います。



↑2月8日、衆議院議員選挙の朝、雪が降りました。近所の公園の雪です。この程度ですが、積もったと言っているのでしょうか。



↑千里金蘭大学の最寄り駅、阪急北千里駅前の交差点。停車中に車の中から撮影しました。「結構な雪だ」と私は思ったのですが、雪国の方にとっては「ほんのちょっとの雪」なのでしょう。



↑2月8日の千里金蘭大学の雪です。結構降っているでしょう？誰かはわかりませんが、雪ダルマを作っていました。雪ダルマが作れるほどの雪だから「結構な雪」と言っているのではないのでしょうか。

小越先生：偉い人ってどんな人たちだったんだ？

ゼン先生：元参議院議員の山東明子氏を始め、国会議員が5~6人は来ていたようです。

私のテーブルは女子栄養大学の方や佐伯専門学校の方でした。

小越先生：そうか。よかったんじゃないか？ところで、JSPENはどうだったんだ？



ゼン先生：賑わっていました。参加者は1万人以上、演題数も1400題以上だったそうです。

小越先生：へええ。すごいなあ。日本の臨床栄養の領域は盛り上がっているんだなあ。

ゼン先生：いやあ、そうではないと思っていますが、とにかく、賑やかでした。

小越先生：まあ、君の感想はそういうことだろう。どんなセッションに参加したんだ？全く勉強せずにぶらぶらしていただけじゃないだろうか？

ゼン先生：1日だけでしたが、午前中は「ワークショップ：チーム医療とPICC」、午後は「パネルディスカッション：静脈栄養の再評価」のセッションを拝聴しました。

小越先生：へええ、PICCや静脈栄養のセッションもあったのか。

ゼン先生：まあ、ありました、という感じです。とにかく会場がものすごく多いので、大変だったと思います。聞いて勉強するというより、どうなんでしょう、とりあえず参加した、という人が多かったんじゃないかと思えます。

小越先生：そうだろうな。ものすごく会場の数が多かったのか。いつもそうじゃないか。JSPEN-FESTIVAL、それでいいんじゃないか？

ゼン先生：収益はかなりプラスだったんでしょう。いいなあ、お金持ち学会で。

小越先生：本当だな。リーダーズの運営は大変なんだろう？JSPENと比べてはダメだけど。

ゼン先生：大変です。でも、この話はここまでにしましょう。また、ゆっくり相談しますので。

小越先生：そうか。学会に関して、何か、言いたいことはないのか？

ゼン先生：一応、抄録集で全体の流れを見たんですが、GLIM関係の演題が多かったという印象です。

小越先生：へええ、GLIMか。みんな、素直に受け入れているんだなあ。

ゼン先生：そうですね。素直な日本人というか、「右向け右」というと「右を向く」、日本人の習性でしょう。

小越先生：低栄養の世界共通診断ということで受け入れられているんだろう？

ゼン先生：そうらしいんですが。スクリーニングで診断してからの2段階評価ですし、筋肉量などは基準値がない、などなど結構重大な問題があるんですが。人種による体型の違い、経済状態の違いなどで根本的な差があるはずなんですが、世界共通診断のどこがいいんでしょう。必要なんでしょうか。

小越先生：そうだな。オレもそう思うけど、日本中が



↑2月9日の朝の道路です。雪道です。え？こんなの雪道ではない？でも、渋滞でした。スリップした車のために通勤に2時間もかかりました。雪道ではない、ですよ。



↑久しぶりに新幹線で東京へ。雪をかぶった富士山がきれいに見えました。いい写真も撮れました。私はジパング倶楽部に入っているので、3割引き。「のぞみ」には乗れませんが、「ひかり」のグリーン車に乗りました。「のぞみ」の指定席料金より安く乗れました。往復。いい天気でした。



↑横浜、桜木町駅を降りた時の写真。もう、何回、この写真を出したかなあ、という感じですけど、横浜だなあ。今回は観覧車にもロープウェイにも乗らず。ランドマークタワーにも上りませんでした。もう何回も行っているから。JSPENは今後数年間、ずっと横浜らしいですね。関西には、神戸には、大阪には、もう来ないのでしょうか。

走り出しているんだろう？

ゼン先生：はっきり言うと、余計な仕事を増やしているだけなんじゃないでしょうか。現場からのそういう声も聞こえてきています。

小越先生：要するに、GLIM基準による低栄養診断が、その後の栄養管理にどう結びついているか、それが大事なんだけど。どうなんだ？

ゼン先生：結びついていないでしょう。栄養診断の結果を医師が見ていないようですから。

小越先生：なるほど、そこがポイントだけど、その議論をせずに GLIM、グリム、って言っているんだ。オレはそれが一番困ることだと思うけど。

ゼン先生：看護師さんや管理栄養士さんが、忙しいのに、必死の思いで手間暇かけて GLIM で低栄養と診断して、栄養管理しなければならないというメッセージを出しても、担当医は気にしない、という現状なんですよ。医師で GLIM 基準での栄養診断を知っている人自体が少ないんですから。

小越先生：無駄なことをやっているんだらうな。

ゼン先生：無駄なことと言い切ると、がんばっている人達に叱られますよ。GLIM についてはこれ以上のコメントは止めましょう。

小越先生：そうだな。

ゼン先生：他の話題としては、リハビリ関連が多かったように思います。

小越先生：リハビリか。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の参加者も多かったんじゃないか？

ゼン先生：そうですね。演題の内容としてもリハビリ関連が多かったようですし、発表者も OT、PT、ST が多かったと思います。数は知らないんですが。

小越先生：なるほど。今はリハビリ関連が非常に注目されているからな。

ゼン先生：私が代表世話人をしている「関西 PEG・栄養とリハビリ研究会」も、「リハビリ」を追加しました。でも、胃瘻とリハビリ、それが大事だとしています。

小越先生：リハビリだけの学会もあるのだからな。ということは、JSPEN は静脈栄養・経腸栄養とリハビリの組合せが大事だということにならないといけないんじゃないか？

ゼン先生：もちろん、そうだと思います。でも、実際には静脈栄養・経腸栄養とリハビリの組合せはどうなっているんでしょうか。私は摂食嚥下訓練と胃瘻 - 経腸栄養の併用、SEN を主張しているんですけど。

小越先生：そうだな。ところで、全体としてはどの職種が多かったんだらう。

ゼン先生：会員数としては管理栄養士が一番多いらしいんですが、調理師も入っているんでしょうかねえ。

小越先生：ハハハ、調理師か。医師の参加者数はどうなんだ？

ゼン先生：全国的な臨床栄養に関する傾向を見ていると、話として聞くだけですが、医師の参加は少なかったんじゃないでしょうか。

小越先生：医師は減っているのだから。



↑夜、牛鍋を食べに行く途中で撮影。横浜の夜景です。きれい。この日は天気もよくて、気温も高かったのです。



↑荒井屋の牛鍋です。牛鍋とすき焼きの違いは？そんなの、どうでもいいです。うまいので。増本先生、北出先生、林先生は初物だとのこと。今まで何回も横浜に来ているのに知らなかったの？もったいない！多分、次回から、必ず牛鍋を食べましょう。林先生は、スタッフに横浜へ行って牛鍋を食べると言ったら、牛丼？と言われたそうです。牛鍋と牛丼、大違いだ！



↑展示会場。ニュートリーのブースが一番大きかったんじゃないかなあ。経口栄養のセッションがメインでした。下左にはコックさん？がいて、説明しておられました。なんか、展示会場は食事関連が多いので、病態栄養学会と似てきているような気がしたのですが。



↑展示会場とポスター会場の入口です。いろんな色の「紐」が並べられています。会場をうろうろしていたら東京医大八王子の関くんに会いました。かわいい管理栄養士さんを連れて。管理栄養士のオレンジの紐です。私はブルーです。

ゼン先生：わかりませんが、まあ、私が知っているこの領域の医師は、みなさんもう高齢化していますからね。若い方の参加がどうなのか、わかりません。

小越先生：ハハハ、確かにそうだけど。管理栄養士さんや看護師さんも、君は若い人は知らないだろう。

ゼン先生：確かに。若い人は知りませんね。それは仕方ないことですよ。そうそう、今回は、学会のネームカードの紐が職種別に分けられていました。紐の色を見たら、どんな職種かがわかるんです。

小越先生：へええ、いいアイデアじゃないか。しかし、紐はないだろう、紐は。ネームストラップだよ。

ゼン先生：紐じゃだめですか？

小越先生：まあ、君は紐でもいいけど、はっきり言うたダサイ。君らしいかもな。

ゼン先生：なるほど、ネームストラップですか。どうせ、私は紐ですけどね。

小越先生：すねるな。

ゼン先生：すねてませんよ。紐でもなんでもいいですが、職種別の参加者数は非常に興味がありますね。でも、OT、PT、STの人達を「その他」にしては申し訳ないような気がしました。「その他」は白い紐です。

小越先生：へええ、リハビリの方々が「その他」か。それはかわいそうだよ。

ゼン先生：私は、論文なんかで栄養関連の職種を記載する時、「リハビリ関連」とか「理学療法士／作業療法士／言語聴覚士」としています。「その他」は申し訳ないと思います。リーダーズでもものすごくいい発表をしてくれていますから。

小越先生：確かに、そうだな。会員数、参加者数もリハビリの方達は増えているだろうからな。

ゼン先生：そうですね。それから、とにかく、静脈栄養関連は、もうダメですね。演題も少ないし、レベルも低すぎる、そう思いました。

小越先生：そうか。仕方ないのだろうか。

ゼン先生：そうかもしれません。私自身、ちょっと弱気になっています。

小越先生：君が？

ゼン先生：そうです。TPNが必要なら、エルネオパNFをぶら下げておけばいい。勉強なんてしなくてもいい、そう思っている人がほとんどでしょうから。中身や組成もほとんど気にしていないようですし。

小越先生：勉強はいらぬ、か。

ゼン先生：そんな感じです。PICCはものすごく普及しているんですよ。でも、それによってTPN症例が増えたとか、管理がよくなって感染率が低下したとか、そんな報告はほとんどありません。

小越先生：なんのためのPICCが増えているんだろう。

ゼン先生：便利だから、医師の仕事量が減るから、末梢ルートがとれなくて困ることがなくなるから、そんな



↑ 栄養関連器具の展示もありました。鈴木会長がいろいろ手配したのだそうです。特典を与える、ということだったそうです。うまいなあ、勧誘の仕方が。ニプロ、オリンパス、メディキットの展示ブースです。静脈栄養は、もはや大塚製薬工場が展示するかどうかですけど、なかったような。キドパレンが展示されていたかも。大塚製薬工場が力を入れていたのはタムガイドでした。



↑ 上はポスターセッション。ポスターのパネルの並べ方、いいんじゃないでしょうか。下は「パネルディスカッション：静脈栄養の再評価」の会場。結構、賑わっていました。私は、90分間、ずっと、後ろで立っていました。発表した杉本先生は私が立って聞いていたことに気づいたそうです。せっかくの発表に対する議論がなかったのはもったいないと思いました。

ことだろうと思います。

小越先生：君が PICC を普及させようとした意図は、どうなんだ？

ゼン先生：もちろん、そういう理由も含まれていますが、適正な静脈栄養、ひいては栄養管理がより良く実施できるようにする、でしたが、ちょっと違う方向を向いているような気がします。PICC のセッションでも、静脈栄養のセッションでも、管理内容についての発表はほとんどありませんでした。

小越先生：PICC は挿入についてばかりか？

ゼン先生：そうですね。診療看護師や特定看護師ががんばっている、こんなすばらしいシステムを構築している、だったと思います。

小越先生：それも否定はしないが、どうなんだろう。

ゼン先生：それも大事なんです。医師はもう PICC だけでなく、CVC 自体の挿入はできなくてもいいんじゃないか。研修医が特定看護師や診療看護師に CVC の挿入を依頼するようになってきている施設もあるようですし。

小越先生：そうだな。診療看護師や特定看護師がいな

い施設に勤務するようになったらどうするつもりなんだらうな。

ゼン先生：本当にそうですよ。

小越先生：それから、もっと輸液内容、管理内容、成績を検討すべきだと思っているんだらう？

ゼン先生：そうです。合併症を減らすために、感染を減らすためにこういう管理をしている、その結果、栄養管理としてレベルアップして患者さんの栄養状態がよくなった、QOLが上がった、そういう発表が聴きたかったのです。

小越先生：そうだな。そうすると、モチベーションが上がって、PICCを使った静脈栄養をきちんとやろう、という気になる。

ゼン先生：そうして、勉強しよう、となる、そう思うんですが。難しいです。

小越先生：そうか。君の活動に対するモチベーションが上がるような学会参加じゃなかったんだな。

ゼン先生：そうですね、残念ながら、私自身は。でも、知り合いというか、ちょっと知っている人達が、たぶん同じ病院の方々が、5人、10人と集まって楽しそうにしていました。楽しい学会参加だったのでしょ。

小越先生：昔からそういう話はあったよな。NSTのみんなで学会に参加する、だな。

ゼン先生：そうです。NSTの慰安旅行的な雰囲気です。それも悪くないと思います。JSPENで発表するために仕事をし、いいモチベーションになりますから。

小越先生：ちょっとうらやましかつたんじゃないか？研究して、その発表のために学会に参加する。そういう活動を日本で最初に始めた者としては。

ゼン先生：そうかもしれませんね。1993年にアメリカから帰国して、当時の大阪府立病院の看護師さんに栄養関係の研究をしてもらって、一緒にあちこちに発表に行ったりしました。A.S.P.E.N.でも発表しました。もう30年以上昔のことです。

小越先生：そうだったな。あの頃の大阪府立病院の看護師さん達の活躍は結構有名になっていたな。それを考えると、君自身は寂しくもあつたんじゃないか？

ゼン先生：いえいえ、そういう立場ではないことはわかっています。でも、そう言われたら、そうかもしれません。でも、この学会参加をきっかけにして、適正な臨床栄養の普及活動に頑張ってもらったら、それは

秋葉原から東京駅まで歩きました。この経路で、です。さすがに東京駅に着いた時は、疲れたなあ、と感じました。新幹線に乗る前、東京駅の階段につまずいたのです。恥ずかしかったけど、怪我はありませんでした。疲れて足元を見る余裕がなかったのです。「年寄りの冷や水」の結果でした。



↑秋葉原駅から歩いて十思（じっし）公園へ。伝馬町牢屋敷の遺構と、吉田松陰終焉の地の碑がありました。ここに吉田松陰の碑があるとは知りませんでした。ぽつんと立っていました。



↑十思公園から秋葉原駅へ戻り、湯島聖堂へ。しかし、開場は9時半。私が着いたのは8時半。入れません。でも、行ったのは行ったので、それはそれで私には十分でした。



↑JR御茶ノ水駅から歩いて皇居の前を歩いて東京駅へ。なんか、皇居が東京駅の前にあるので、行きやすい。そういえば、大阪城は大阪駅から遠いので、馴染みがないかもしれませんね。皇居のお堀の写真は、なんか、好きなのです。



それで有意義な学会参加だと思います。リーダーズにも参加して欲しいんですけど。

小越先生： そうだな。学会参加がすごくいい活動のモチベーションになるのは間違いないだろう。そういう意味でも、参加者にいろいろ楽しみを作ったのはよかったです、鈴木会長を褒めるべきなんじゃないか？

ゼン先生： そうですね。まあ、そうですね。

小越先生： 相変わらず気乗りしない返事だ。

ゼン先生： 楽しい、それを否定はしませんが、学会なんですよ。学術集会なんです。そこをもっと考えるべきだと思うんですが、良くないですか？

小越先生： まあ、学術集会としての色合いをもっと強調するべきだという君の考え方は否定しないけど。それはそれとして、JSPENは来年も横浜だろう？参加するつもりなのか？

ゼン先生： いえ、今のところ、そのつもりはありません。でも、今回のように「ついでに」参加しなければならなくなったら、横浜なので、「荒井屋の牛鍋」を楽しみに参加します。

小越先生： 横浜といえば牛鍋、だからな。

追記：2026年2月は、冬季オリンピック（ミラノ・コルティナ）で盛り上がったことを書き忘れました。今までで最高の数のメダルを獲得しました。よかったね。3月は野球のWBCで盛り上がるでしょう。

第19回、犬山でのリーダーズ学術集会のお知らせです。まだ、間に合います。今回は、教育講演も非常に面白いですよ。是非、参加してください。お待ちしております。



↑東京帝国ホテル（Imperial Hotel）での「大日本栄養士会創立80周年記念祝賀会」兼「中村丁次氏瑞宝中綬章受章記念祝賀会」です。もちろんですが、中村先生、気分十分。栄養が日本の繁栄をもたらしたんだ、と堂々と述べておられました。その通りです。長寿社会を作ったのも栄養です。その主役は栄養士だ！でも、ダドリック先生、小越先生、岡田先生をはじめ、医師もがんばったんですよ、食べられない患者さんのために。

第19回 静脈経腸栄養管理指導者協議会 学術集会

自然豊かな木曽川のほとり、犬山で新たな学びをともに。
第19回静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会が犬山で開催されます！
医療と栄養の進化に寄与する研究や実践を発表する絶好の機会です。
ただいま演題募集中！新たな知見で、栄養管理の未来をともに築きましょう。

①開催概要

- 日 時
2026年3月7日(金)～8日(土)
- 会 場
犬山市民交流センターフロイデ
〒484-0088 愛知県犬山市松本町4丁目21
- 当番会長
齊藤 雅也
社会医療法人聖愛会 総合犬山中央病院

②参加登録受付中

こちらの2次元コードよりお申込み下さい。



ホームページ（PDF版）をダウンロードし、印刷して会場受付で提出してください。また、会場受付では、お申し込みの受付時間、お申し込みの受付方法、お申し込みの受付料などについてお話しさせていただきます。

③お問い合わせ

一般社団法人 静脈経腸栄養管理指導者協議会 事務局
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1
TEL: 06-6372-3053
Email: leaders@intergroup.co.jp
HP: <https://penleaders.org/index.html>

一般社団法人 静脈経腸栄養管理指導者協議会（リーダーズ）の目的
静脈経腸栄養および経腸栄養法を主とした栄養管理に關して指導的立場にある
医療従事者が、基礎的・臨床的研究を通じて交流を促りながら専門知識の
より発展を求め、適正な栄養管理の普及に寄与することを目的とす。

学会は
議論の場!

【今回のまとめ】

1. 日本栄養士会代表理事会長の中村丁次先生の瑞宝中綬章受章記念祝賀会に出席しました。盛大なパーティでした。中村先生、おめでとうございます。「栄養の重要性を日本国として評価した」という意義ですね。
2. そのついでに第41回JSPENに参加しました。盛大でした。
3. 横浜といえば牛鍋です。4人で牛鍋を囲んで楽しく会食しました。
4. 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を「その他」としてはいけなかったと思います。
5. 静脈栄養は簡単だと誤解している人が大部分になってきているのではないのでしょうか。明らかに誤解です。
6. PICCは適正な静脈栄養を実施するために使ってください。その方法、そして成績を発表してください。便利だから、のPICCではありません。